

創価大学 公募推薦入試 学習アドバイス(傾向と対策)

【出題傾向】

〔1〕 出題形式

全問マークシートによる穴埋め式で大問4題、試験時間は**60分(2020年度までは70分)**、出題範囲は数学Ⅰ・Ⅱ・A・B(数列、ベクトル)である。

〔2〕 出題内容

	2018	2019	2020	2021
①	2次方程式が解をもつ条件と確率	(1)対称式の値 (2)三角比	空間ベクトル	無理数の有理化
②	長方形から作られる箱の容積の最大値	サイコロの出る目の確率	2円の共通接線と確率の融合問題	整数問題
③	空間の位置ベクトル	放物線と直線で囲まれた図形の面積、線分の長さ	常用対数	放物線と直線で囲まれた図形の面積
④	対称式を利用した2変数の2次式	群数列	三角形の面積の最大・最小	確率漸化式

概ね1つの大問が2～5問の小問に分かれて出題されているが、2020年度は小問に分かれていない大問も出題された。関数、確率、数列からの出題が多いが、全単元から広く出題されている。また、複数単元の融合問題も出題されている。2021年度で言えば、大問④は確率と数列の融合問題であった。

〔3〕 難易度

基本～標準レベルの出題である。何をすればよいかわからないという問題は少なく、基本的には問題の誘導に従っていけば解答にたどり着くようになっている。ただし、試験時間が2021年度から60分に変更されたが、全体の分量は大きく変化していないため、時間的な余裕はない。

【学習アドバイス】

〔1〕 計算力の強化

上述したように難問は少なく基本～標準問題が多いため、問題自体に行き詰ることは多くないと思われるが、その分計算ミスは致命的である。また、時間的な余裕もないため、計算に時間が掛かると最後までたどり着かない恐れもある。

そのためにも普段から計算練習をしておくことが重要である。また、少しでも速く、確実に問題を解くためには定理や公式、また典型的な解法をしっかりと定着させておくことも必要である。

〔2〕 実戦力を身に付ける

出題形式が大学入学共通テストと同様であるから、共通テストの過去問や共通テスト対策用の問題集などで実戦力を身に付けることが重要である。共通テストでは、数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの全単元から出題されているため、入試直前期の演習には適している。特に、公募推薦入試の過去問だと数学Aの「平面図形」や数学Ⅰの「データの分析」からの出題がなく、その単元から出題された場合には対応できないので、共通テストの過去問演習はその点においても重要である。

しかし、共通テストでは融合問題の出題がないため、共通テストの過去問のみでは不十分である。マークシート方式でなくてもよいので、標準レベルの受験問題集に取り組み、融合問題にも慣れるようにしていきたい。